

2010年11月13日

新日本製鐵株式会社

ウジミナス社拡張投資計画の見直しについて

新日本製鐵株式会社（社長：宗岡正二、以下、「当社」）の南米におけるアライアンスパートナーであり、持分法適用関連会社であるウジミナス社（社長：ウィルソン・ブルーム）は、現在実行中の拡張投資計画の修正につき以下の通り発表いたしました。

ウジミナス社は、イパチंगा製鉄所に近接するサンタナ・ド・パライズ地区で、500万トンの鉄源製鉄所を建設することを決定（2008年7月）し、実行に向けて検討してまいりましたが、その後の世界鉄鋼事業環境に即して計画を見直し、盤石な国際競争力と一貫生産能力向上とを確実に実現すべく、より効率的な案として、イパチंगा、クバトン製鉄所、及び鉄鉱山事業、に集中した投資計画の検討をすすめることにいたしました。

ウジミナス社は、着実な増加が期待されるブラジル鉄鋼需要を捕捉すべく、高級鋼化投資を中心とした圧延能力の増強（イパチंगा厚板、クバトン熱延、UNIGAL-CGL増設、本年から2012年にかけて順次稼働予定。後述、「参考」をご参照ください。）を既に進めてきており、これに見合う一貫能力については上記投資計画の検討により、確保を図っていく予定です。本件につきましては、今後の検討の進捗に応じ、適宜発表していきます。

また、自社鉄鉱山メリットを拡大すべく、鉄鉱石事業の拡張も促進いたします。

<ウジミナス社発表要旨>

ウジミナス社は、本日開催された経営審議会において、現下のマーケットの状況を勘案した結果、ミナス・ジェライス州サンタナ・ド・パライズ市に新製鉄所を建設する計画を中止することを決定いたしました。

また、経営審議会は、製鉄事業の競争力を高め、かつ、ブラジル鉄鋼市場においてより良いポジションを確保すべく、以下の検討を深めることを決定いたしました。

- イパチंगाとクバトンの製鉄所の生産構造の最適化を行い、コスト低減・品質向上、ならびに圧延能力の増強に見合った鉄源能力の整備を行い、均衡を図る。
- 製鉄所で発生したガスの回収・利用率向上を含めた、エネルギー効率向上とエネルギーバランス改善を図ること。
- 鉄鉱石鉱山子会社であるウジミナス・マイニング社の生産能力拡張第1段階として、550百万リアル（275億円）の投資。この投資より、ウジミナス社は2012年下半期に、現在の7百万トンの対し、12百万トンの生産能力に達する見通しです。

当社は、全社を挙げてウジミナス社を支援し、当社・ウジミナス社両社企業価値の一層の向上を図る所存です。この中で、ウジミナス社は米州一の高級鋼鉄鋼メーカーとなることを目標に、上記の投資を実行するものです。

(お問い合わせ先) 総務部広報センター TEL : 03-6867-2135, 2146, 2147

以 上

【参考】ウジミナス社投資進捗状況

<イパチング製鉄所>

- ・ 第3 コークス炉新設 (能力 : 75 万ト/年) : 10 年 3Q 稼働開始。
- ・ 第2 コークス炉改修 (能力 : 100 万ト/年)
12 年 2Q (第3 炉団)、13 年 4Q (第4 炉団) 完工予定。
- ・ 第3RH 新設 : 11 年 3Q 完工予定。
- ・ 高級厚板製造設備 (CLC) : 10 年 3Q ホットラン開始。
- ・ 厚板能力拡張 (+50 万ト/年) 12 年 4Q 月完工予定。
- ・ Unigal 第2CGL 新設 (能力 55 万ト/年) 11 年 1Q 完工予定。

<クバトン製鉄所>

- ・ 第2 ホット新設 (第一期能力 : 230 万ト/年) : 11 年 3Q 完工予定。
- ・ 第3 酸洗ライン新設 (能力 : 100 万ト/年) : 11 年 4Q 完工予定。